

○褒めて育てましょうの問題点

子どもは褒めて育てましょうとよく言われますが、褒め方も難しいものだと思います。褒めた時の子どもの表情をよく見て声掛けをしなければなりません。まずは、間違えた褒められ方をしてきたなど感じる時の例をあげます。

- 1、「自分はエライ！」と思い込んでいる
- 2、友達の成功を喜ぶことができない
- 3、大人の顔色を窺って物事を判断している
- 4、いい子にしてなきゃと思い込み過ぎていて、うまくいかないとキレてしまう
- 5、「注意」を受けた経験が少なく、注意そのものを受け入れられなくなっている

それでは、どんなところに注意をして褒めたらよいのでしょうか。

○ 具体的に褒める

自分のどのような行為によって褒められているのか伝えましょう。「エライ」「すごい」だけでなく、「〇〇ができていて感心した」等と内容を伝えます。

○ 過去の本人と比べて褒める

兄弟や友達など他人と比べて褒めることは止めましょう。他人を卑下するようになります。また、他人の方が優れていると認識した場合は、自分に劣等感を抱きます。

○ 基準を持って褒める

その時の自分の感情や場の雰囲気や褒めたり、褒めなかったりするのによくありません。重なると大人の顔色ばかり窺い行動するようになります。

○ 努力した過程を褒める

褒める時は、つい結果だけを褒めてしまいがちです。確かに今、目に見えている結果の方が分かりやすいですし、褒めやすいですが、それに至った努力や頑張った過程に目を向け褒めます。

○ 「叱らない」こととは違う

叱らなければいけない場面を見逃すことはよくありません。叱るべき場面では叱り、その中で、子どもが反省を見せたり、改善すべき点を見つけたりしたら、当たり前とは思わずに褒めましょう。

褒める時に大切なことは、必ず「心を込めて褒める」ことです。片手間に褒めたり、「本当はたいしたことないけれど、とりあえず褒めておこう」という気持ちで褒めると、逆に意欲を低下させたり、大人への不信感を抱かせることもあります。子どもは大人の気持ちを敏感に読み取っているものです。

伸ばす褒め方で、子どもの健やかな成長を促していきましょう。

引用 家庭教育研究家 田宮 由美 さん コラム



ホームページ更新しました	来週の予定				
○ふれあいタイム5年企画 室内バージョン ○令和4年度前期授業力向上研修 ○朝礼および十四山に関する講話 ○令和4年度第1回学校評議員会 ○1年生と2年生で海南こどもの国にいきました。	月	日	曜	時間	行事等
	6	27	月	14:55	付添下校
		28	火	15:45	読み聞かせ1・3年 一斉下校
		29	水	14:55 15:45	スーパーふれあいタイム 1～2年スクールガード下校 3～6年下校
		30	木	14:55 15:45	1～3年下校、4～6年委員会 4～6年下校
	7	1	金	14:55 15:45	読み聞かせ6年 1～3年下校 4～6年下校

子どもたちの活動の様子は、本校ホームページをご覧ください。

十四山東部小学校

検索

または

